

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
44	川崎市立南生田中学校	小松 隆之

学校教育目標	今年度の中期重点目標
『師弟同行』の精神を基にしてより良い社会を創り上げる豊かな人間の育成を目指す。 1 個性と能力を磨く 2 思いやりの心を育む 3 気力と体力を高める 健康と体力を増進し、逞しい心身の陶冶によって、責任感と実践力を身につける。 4 勤労と奉仕の心を培う	○人間としての在り方生き方の軸をつくる ○学ぶ意欲を育て「生きる力」を伸ばす ○一人一人の教育的ニーズに対応する ○良好な教育環境を整備する ○学校の教育力を強化する ○家庭地域の教育力を高める ○いきいきと学び、活動するための環境をつくる

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 (1)人間としての在り方 生き方の軸をつくる ①キャリア在り方生き方教育の推進 ②生徒会活動の充実 ③あいさつ活動の推進	①総合的な学習の時間教育課程研究協力校として、キャリア在り方生き方教育実践報告を行った。6月にはSDGsの講演会を行った。また、3年生が学んだSDGsに関する知識をプレゼンテーションという形で1年生に伝える機会を講演会形式で設けた。 ②生徒会活動の充実として、体育祭や文化祭の実施に向けてリーダーによる話し合い活動を行い、企画を立て、生徒が主体となる取り組みをした。	②の「生徒会活動の充実を図っている」の肯定的回答がポイント上がった。これは、生徒会本部を中心として主体的に取り組む活動が展開されたことがあげられる。特にコロナ前に戻った形で行われた「ふれあい広場」は、PTA、OBひばり会、同窓会のご協力のもと、非日常を感じる学びの場として4年ぶりに実現することができた。	キャリア在り方生き方教育」の視点に立って、研究推進校・研究協力校として構築した学びを今後も継続していく。 生徒が中心となる取組として実施していくよう、生徒会本部役員や学年リーダーを中心として、生徒一人ひとりが主体的に取り組む活動を推進していく。 生徒の学習や特別活動の結果を、PTA、同窓会、OBひばり会の協力を得て、地域に発信し続け、地域との連携をさらに深めていく。
2 (2)学ぶ意欲を育て「生きる力」を伸ばす ④確かな学力の育成 ⑤豊かな心の育成 ⑥健やかな心身の育成 ⑦ICT教育の推進	⑤体育祭や飛翔祭(文化祭)を生徒が主体となり実施できるよう、生徒による実行委員会での話し合い活動に重きをおき、企画・運営に取り組んだ。 ⑥ICTの活用については、ステップ3を迎え、各教科の学びが他教科の学びと繋がりができるような授業展開を目指した。	教職員の自己評価では⑤・⑥について肯定率が下がっている。授業の工夫やICT活用を行うにあたり、成果よりも課題を捉える傾向があると思われる。④確かな学力の育成では、朝・昼休みのオープン教室(学習活動)の常時開催を続けたり、学習相談室での個別対応や取り出し指導を推進し個に応じたきめ細やかな指導を行うことができた。	確かな学力の育成や豊かな心の育成、健やかな心身の育成を図るため、キャリア在り方生き方教育取組を推進していく。GIGAスクール構想が推し進められている中において、今年度の重点目標の一つとして位置付けたICT教育の推進は、ステップ3に入りより一層取り組んでいくことが求められて校内研修に取り組んでいくことで、ICT教育の推進を図っていく。
3 (3)一人一人の教育的ニーズに対応する ⑧支援教育の推進 ⑨かわさき共生＊共育プログラムの実施と活用 ⑩いじめ・不登校の未然防止と早期対応	⑧学習相談室の時間割を設定し、教科の授業には教科担任が指導できる体制を構築した。 ⑨年間6時間を確保しグループワークなどの共生＊共育プログラムを実施した。 ⑩生徒や保護者との信頼関係を築くとともに、情報収集、早期対応に努めた。また、家庭訪問や家庭連絡を積極的に行った。	⑧支援教育の推進においては、支援教育コーディネーターを核とした校内支援体制を構築し取り組んだ。 ⑩「いじめ・不登校の未然防止と早期対応に努めている」の生徒アンケートでは肯定回答率が11ポイント上がっている。教職員は、担任を中心に学年・学校全体の取り組み課題として重くとらえていく。	支援教育の推進においては、支援教育コーディネーターを中心に校内支援体制の構築に引き続き取り組み、支援のニーズに対応できる体制を推進していく。学習に課題のある生徒一人一人に対応できるよう、学習相談室での学習指導を強化し、週29時間の時間割を設定し、それぞれの教科担当による授業ができるように継続して進める。
4 (4)良好な教育環境を整備する ⑪防災教育・安全教育の推進 ⑫快適な教育環境の整備 ⑬部活動の安定的な運営	⑪年間3回の避難訓練を実施した。 ⑫各学年の階の女子更衣室をいつでも使えるように配置した。学習相談室や学習室を整備し、活用を進めた。 ⑬川崎市部活動方針をもとに本校の部活動方針をつくり、運用した。	⑫今年度はコロナ感染症を鑑み、小中連携事業として行っている保護者や地域の方を行う地域清掃活動は行えなかった。 教職員の自己評価では、⑬「部活動の適正な運営に努めている」保護者アンケートでは7ポイントの上昇が見られる。今年度も生徒の活躍について、PTA、OBひばり会、同窓会のご協力をいただき、横断幕を設置し、地域に生徒の活躍を発信した。	コロナ禍における対応は引き続き求められることを想定し、川崎市のガイドライン等を確認し取り組んでいき、安心して学校生活を送れるようにしていく。また、今後も川崎市教育委員会より示された「川崎市立中学校の部活動に係る方針」に則り、本校における活動方針を示し、運用を行っていく。また、生徒の自主的、自発的な活動の場の充実に向けて、地域の特色を生かした取り組みについて模索していきたい。
5 (5)学校の教育力を強化する ⑭教職員研修の充実 ⑮学校評価を生かした教育活動の推進 ⑯適正な校務の遂行と公務員倫理の確立 ⑰体罰や不適切な指導の根絶	⑮学校運営協議会(コミュニティスクール)の指定を受け、開かれた学校としての取組を推進し、学校評価を生かした教育活動の推進を図った。 ⑯教職員として適正で正しい姿であるように努めた。 ⑰教職員として体罰や不適切な指導がないように努めた。	教職員の研修の充実については、年間を通して、授業研究、指導・評価研修、生徒指導研修、人権尊重研修、体罰防止研修、服務規律研修等に取り組んでいる。適正な校務の遂行と公務員倫理の確立については、生徒アンケートでは変わらず、保護者アンケートでは2ポイント上がった。⑰については保護者アンケートでは7ポイント上昇したが、体罰や不適切な指導の根絶については、厳守していかなければならないものである。	GIGAスクール構想の取組を推進し、学習活動の充実につなげていく。 学校評価を生かした教育活動の推進では、今後においても学校経営方針の理解と、重点目標の達成を目指した教育活動が展開できるよう取り組んでいく。 適正な校務の遂行と公務員倫理の確立について及び、体罰や不適切な指導の根絶については、厳守していかなければならないものであり、教職員が互いにより良い姿を求め、研鑽していくよう努めていく。
6 (6)家庭地域の教育力を高める ⑱教育相談の充実と家庭、地域との連絡・連携の徹底 ⑲基本的な生活習慣の確立 ⑳情報発信の充実	⑱教育相談月間を年間2回設け一人ひとりの生徒と面談を行ったり、学期末に三者面談を行った。 ⑲あいさつの奨励や、キャリア教育の観点から自他を大切にすることを育てる学習を行った。 ⑳学校便りや学年通信、横断幕の掲示など情報発信に努めた。	教育相談の充実と家庭、地域との連絡・連携の徹底については、三者面談、教育相談月間(年2回)を年間計画に位置づけ取り組んでいる。また、PTA運営委員会や学校運営協議会、地域教育会議、町会との連携を図っている。特に「ふれあい広場」の取組においては、PTA、OBひばり会、地域の方からの協力をいただき、4年ぶりに活動を行うことができた。⑳については、生徒・保護者アンケートともポイントは昨年と変わらない。これはミマモルメ等での情報の発信が更に活発になってきたことがうかがえる。	学校運営協議会の設置校として4年目の取り組みを行い、保護者や地域協力者からの支援をいただき教育活動が進められた。コロナ禍において希薄になっていた保護者・地域協力者と連携を図り、地域に開かれた学校として情報を発信しながら教育活動を推進していく。 情報発信の充実においては、生徒の学習や学校生活の様子を理解いただけるよう、授業公開や参観日を引き続き実施していく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>○いつもご指導いただきありがとうございます。保護者として学校に関わる機会は少ないですが、子どもを通して先生方が大変熱心に関わり、見守りご指導してくださっていることをとても強く感じております。本当にありがとうございます。中学校の先生方は激務だと思います。労働環境が守られ、プライベートが確保されていることを願っています。</p> <p>○お忙しい中、学校で何があったかなど分かるクラスのお便りなど、作ってくださりありがとうございます。学校の様子分かるのでとても楽しく拝見しております。授業の準備や行事、部活などとても忙しいなか丁寧に対応してくださる先生方にとても感謝しております。</p> <p>○生徒のために力を注いでくれている先生方いつもありがとうございます！部活動等を通して子供が成長しているなど感じております。今後ご指導よろしくお願ひします。</p> <p>○先生もご無理をせずやっていただきたい。例えば、部活動など、地域の方やプロの方などの協力なども得られるような体制になると、先生方の負担も軽くなるのではないかと思います。</p> <p>○クラスの人数を減らしてコンパクトにしていくことを望みます。または、担任や教科を2人体制にすることで、学習などのサポートのさらなる充実を望みます。また、先生方の働き方は、まだまだ大変だだと思います。熱意があって、長時間学校にすることが平気だったり、やりがいを持たれている方もいるとは思いますが、人数や体制を増やすことで、先生方が休みなどもとりやすく、余裕を持って、子供の教育にあたれるよう改善していくことを強く望んでいます。</p>	<p>○学校の自己評価は概ね適切である。生徒や保護者のアンケート結果とも大きな違いがあるところではなく、信頼性があると考えられる。また、教職員の自己評価や生徒アンケート・保護者アンケートは、前年度の結果と概ね同じ傾向と分析することができる。</p> <p>○「人間としての在り方生き方の軸をつくる」については、継続した取組を行うことで、キャリア在り方生き方教育の推進や、生徒が主体的な活動ができる力をつけていく取組の推進が、一定の効果を得られたと考える。特に3年生が学んだことを1年生につなげていく取組は効果があると思われる。</p> <p>○「学ぶ意欲を育て『生きる力』を伸ばす」については、教職員の自己評価は前年度と比較し向上しているが生徒アンケートや保護者アンケートは前年度と差異がみられるとはいえない。ICT教育の充実が求められるところであり、川崎市GIGAスクール構想もステップ3を終え、教員が十分に活用できるようさらに力をつけ、生徒がGIGA 端末を活用した学習活動が展開できることのように望みたい。生徒がGIGA端末の使い方に慣れていくがゆえに、誤った使い方をするケースも見られる。普通の授業や講演会を含め、SNS等の活用の仕方に対する注意喚起は今後も続けていく。</p> <p>○「一人ひとりの教育的ニーズに対応する」については、学習相談室の活用やオープン教室の朝・昼休みの実施など、取組に効果がみられる。支援教育を推進することや、いじめ・不登校の未然防止と早期対応にしっかりと取り組むことで、生徒が安心して通える学校づくりに引き続き取り組んでいきたい。</p> <p>○「良好な教育環境を整備する」については、小学校と中学が協力して保護者、地域とともに取り組んでいくことを目指している。コロナ禍を終え、希薄になりがちだった地域との関係を様々な形での発信と地域の方々の協力を得ながら今後とも取り組んでいきたい。部活動の適正な運営については、部活動方針に従って適正に実施していくことはもちろんのこと、その徹底に努めることが求められているところであるが、地域・民間への移行が図られる中、生徒・保護者の中にはより充実した活動を求める意見もある。在籍中の生徒には今がすべてであり、より充実した活動ができるよう、働き方改革に取り組みながら、保護者や地域と協力してできることをしていきたい。</p>